

[2_5]きゅうとNEWSLETTER

<https://hdl.handle.net/2324/1810678>

出版情報：きゅうとNEWSLETTER. 2 (5), pp. 1-, 2008-04. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：





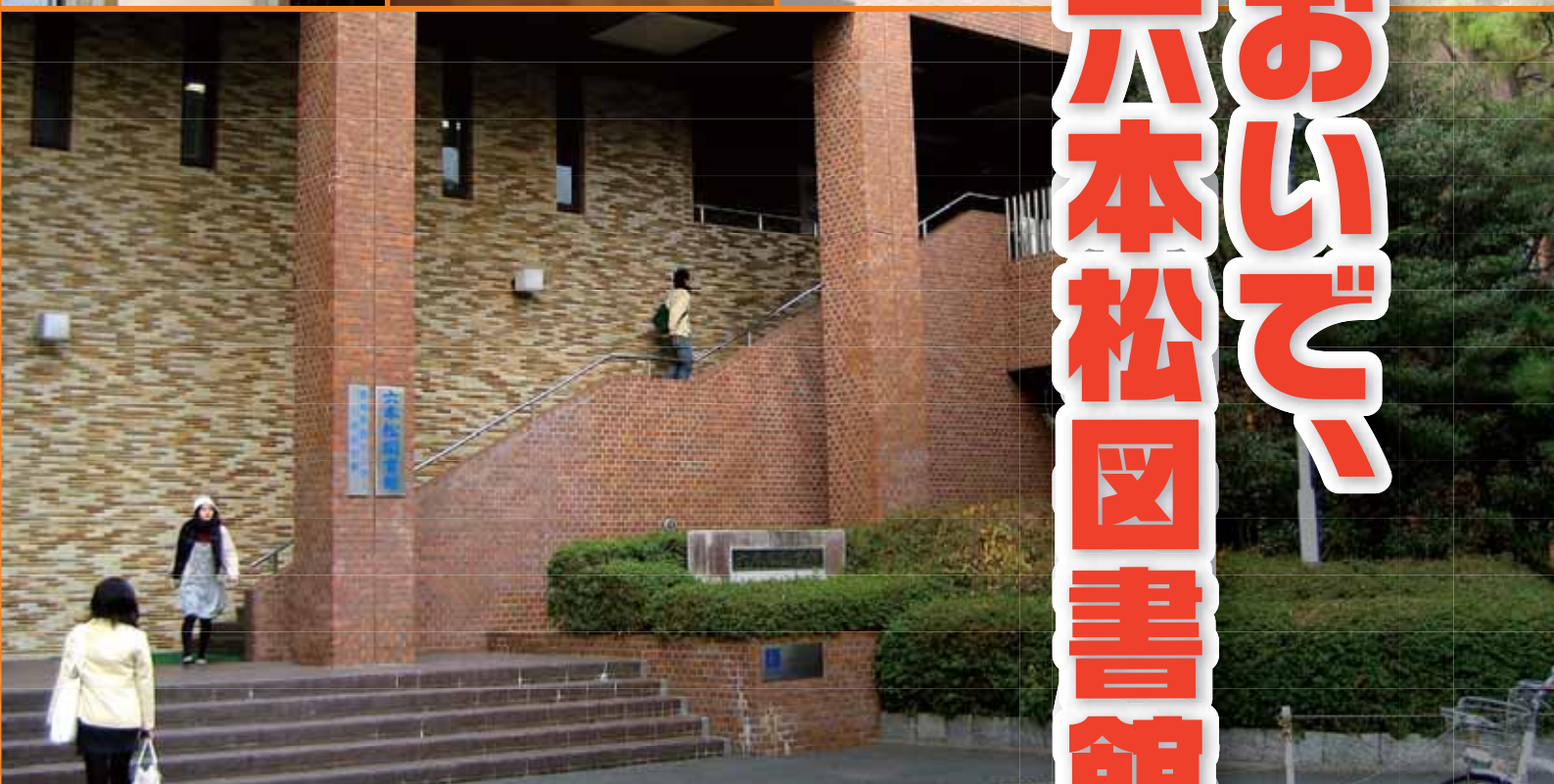
きゅうと

VOL. 2

NO.5

2008.2

THE JOURNAL OF KUMAMOTO UNIVERSITY LIBRARY



おいで、 六本松図書館へ



CONTENTS

- つなぐ 我が贅肉と同学に告ぐ!!
- 資料紹介:六本松分館所蔵『演文庫』
- 自著紹介
- NEWS

- レファレンスOne Point アドバイス
- 附属図書館の講習会
—授業の1コマで活用してみませんか?—
- 図書館員のおしゃべりコラム



我が贅肉と同学に告ぐ!!

人文科学府言語文学専攻 博士課程2年生 大淵 貴之

進化する図書館

近年、本学の附属図書館は大いに進化した。ソフト面では、各種検索ツールや電子ジャーナル、学術情報リポジトリ(QIR)等の電子図書館機能が強化され、ホームページを開きさえすれば手軽に利用できる。コンピューターが不得手な利用者のために職員による講習会や利用案内のためのカウンターが設けられるなど、サポートも充実している。また、ハード面の進歩も目覚ましい。研究個室や携帯電話利用スペース、リフレッシュルームの設置が挙げられる。特に、飲食物持ち込み不可が常識である日本の図書館にあって、利用者のための飲食スペースを館内に設けたことは、実に画期的なことである。



贅肉、自転車に引っ掛かる

利用者のため進化を続ける図書館に対し、我々は、いかに向き合っているだろうか。97年の学部入学以来、10年に渡って図書館を利用してきた筆者の目には、来館者のマナーの低下が非常に心苦しく映る。

先日、中央館の正面玄関スロープ下まで来た筆者の前に、とぎれること無き自転車のバリケードが立ちはだかつていた。近頃目立つ迷惑駐輪である。ほやきつつも若く鋭敏なる知覚を以て瞬時に間隙を判断、ステップも軽く通り抜けんとするに、あに図らんや!三十路前に肥えた腹が自転車に接触、ドミノ倒しの末、絡み合った自転車を並べ直す憂き目に遭ったのである。確かに怠惰によって腹部を肥やしたのは我が責任である。しかし、より非難されて然るべきは、マナー悪き駐輪者たちである。自転車の増加は、図書館利用者の増加によるものかも知れない。もしそうであれば、なおのこと互いに他の利用者を思いやり、配慮有る利用態度が取れてこそ、図書館を利用するに足る知識人であり、我々利用者のために考え数々の工夫を凝らす図書館職員の方々に対する礼儀に適うというものである。せっかくのリフレッシュルーム設置にしても、節度有る利用ができなければ存続は難しい。(もちろん閲覧室での飲食などは論外である。)

我が贅肉と同学に告ぐ

筆者は、サービス改善のための図書館モニター事業に、その一員として参加している。僭越ながら図書館に苦言を呈したこともある。しかし、ひるがえって我々利用者同学の現状を考えるにつけ、図書館に求めるだけが全てでは無かろうとも思われる。学生の内、もはや長老の部類に入る筆者であるから敢えて言おう、共に学ぶ学生諸君、良識有る利用者たれと。そして我が腹部よ!節度を取り戻せ!!





六本松分館所蔵『濱文庫』

九州大学附属図書館六本松分館には、中国演劇を専門とされた濱一衛(1909-1984)・元教養部教授の蔵書が濱文庫として収められています。濱先生は1934年から2年間の北京留学中に、当時の演劇関係の資料を収集されました。この1930年代、さらにその後も収集を続けられた資料は、中国の演劇に関する書籍を網羅するだけでなく、レコードやスライド写真から新聞・雑誌の切り抜きまで多岐にわたり、現在入手することのできない生の資料を多く含んでいます。文献中心の戯曲研究を乗り越えようとした濱先生の考え方もさることながら、理屈めきにお芝居好きだった濱先生の中国演劇への情熱が、濱文庫を特色あるコレクションとしています。文庫の全貌は『濱文庫(中国戯劇関係資料)目録』(九州大学附属図書館教養部分館, 1987; 第2刷1988)で知ることができます。

なお、2009年3月の六本松キャンパス移転にともない、濱文庫は箱崎の中央図書館へ移管される予定です。



戯単(芝居のチラシ)

上段に広和楼という劇場名、中段に俳優名、下段に出し物が印刷されている。京劇の名優・梅蘭芳が1904年に10歳で初舞台を踏んだのもこの劇場である。広和楼是北京最古の戯楼として前門外にあったが、2007年惜しまれつつ解体された。この戯単はそうした京劇の盛時をしのばせてくれる。



チケットの半券

当時の芝居の入場料金や座席指定であることなどがわかっておもしろい。



隈取り図

中国演劇では役柄によって独特の隈取りをする。これは濱先生がご自身で多数描かれた隈取り図の一枚。

レコード

中国の伝統演劇は、唱(うた)と白(せりふ)からなる歌劇(オペラ)であるため、中国語では「聴戯」、すなわち「芝居を聴く」という。そのため演劇の録音が早くからレコード化された。濱文庫にはLP盤、SP盤あわせて約200枚のレコードがある。写真は、おなじみの犬と蓄音機の商標がついたビクターのレーベル。



レコードの目録

当時、RCA Victorが中国で発売していたレコードの目録。現存するのは珍しく貴重である。折りたたみ式の大判で、写真は表紙のみ。目録には1930年代の流行歌手・王人美なども見られるが、濱先生の収集対象ではなかったのか、濱文庫には流行歌曲のレコードが収められていないのは残念である。



唱本

一冊十葉以下の小冊子の唱本が、濱文庫には数百冊以上も所蔵されている。その内容は「説唱」（韻文による語り物）や「雑曲」（民間の歌謡・俗曲）などである。庶民の芸能を伝える唱本がまとまって所蔵されるのも濱文庫の貴重な点である。

自著紹介 本学教員より寄贈いただいた著作です。ぜひ読んでみてください



誌面の都合により、一部次号掲載とさせていただきます。

芸術工学研究院教授 栃原 裕

「人工環境デザインハンドブック」

人工環境デザインハンドブック編集委員会編
丸善 2007.12

ISBN: 9784621079218



このハンドブックでは、九州大学21世紀COEプログラム「感覚特性に基づく人工環境デザイン研究拠点」の研究成果に基づき、班員だけではなく、九州大学さらには学外の研究者にも執筆をお願いした。人工環境の各種環境因子、複合環境および実環境について「生理的評価」、「心理的評価」、「デザイン展開」および「基準値・標準値」を記載し、幼児、高齢者、障害者にも配慮した人工環境のデザイン指針を提示したものである。人工環境に係わる研究者・技術者・学生さらには人工環境を設計するデザイナーにお役に立てば幸いである。

研究者・技術者・学生さらには人工環境を設計するデザイナーにお役に立てば幸いである。

〔中央図書館 / 芸術工学分館 / 理系図書館に所蔵〕

人間環境学研究院教授 三浦 佳世

「知覚と感性の心理学」

三浦佳世著

岩波書店 2007.10

ISBN: 9784000281119



見る、感じる、は人間理解の出発点である。古代ギリシャ語のアイステーシスは、感覚から感情、生理学から文化、日常的判断から哲学的思考まで、あらゆる「知覚」を意味する概念で、この言葉をもとに「美学」が誕生した。しかし、専門化の著しい現在の心理学では、見ることに限っても細分化して研究が行われ、認知や、まして感性は別のテーマとして取り扱われている。本書は、知覚を再びアイステーシスとして捉え、見ること、感じることを共に学ぶことを通し、人間を多層的、総合的に捉えることを意図した最初の本である。知覚研究はもとより、神経生理学、情報工学、比較行動学、実験美学など、周辺領域の知見も取り上げて、読み物としても面白くなるように配慮しており、文系・理系・芸術系を問わず、視覚心理学のテキストとして、あるいは芸術と科学の専門書として読むことが出来るだろう。認知科学から感性認知への広がりを感じるのによい1冊だと思われる。

見る、感じる、は人間理解の出発点である。古代ギリシャ語のアイステーシスは、感覚から感情、生理学から文化、日常的判断から哲学的思考まで、あらゆる「知覚」を意味する概念で、この言葉をもとに「美学」が誕生した。しかし、専門化の著しい現在の心理学では、見ることに限っても細分化して研究が行われ、認知や、まして感性は別のテーマとして取り扱われている。本書は、知覚を再びアイステーシスとして捉え、見ること、感じることを共に学ぶことを通し、人間を多層的、総合的に捉えることを意図した最初の本である。知覚研究はもとより、神経生理学、情報工学、比較行動学、実験美学など、周辺領域の知見も取り上げて、読み物としても面白くなるように配慮しており、文系・理系・芸術系を問わず、視覚心理学のテキストとして、あるいは芸術と科学の専門書として読むことが出来るだろう。認知科学から感性認知への広がりを感じるのによい1冊だと思われる。

〔中央図書館に所蔵〕

このほか、以下の先生方より、著作をご寄贈いただきました。

人文科学研究院講師 辻田淳一郎

鏡と初期ヤマト政権

辻田淳一郎著

ISBN: 9784903763194

すいれん舎 2007.10

〔中央図書館 文学部考古学 比文基礎構造〕

芸術工学研究院教授 河辺 哲次

スタンダード力学 第2版

河辺哲次著

ISBN: 9784785322243

裳華房 2007.5 [中央図書館]

システム情報科学研究院教授 福田 晃

組込み現場の「C」プログラミング：標準コーディングガイドライン

福岡知的クラスタ(第1期)組込みソフト開発プロジェクト編

ISBN: 9784774132549

技術評論社 2007.12

〔中央図書館 芸術工学分館 理系図書館〕

人文科学研究院准教授 静永 健

白居易写讽论诗的前前后后

〔日〕静永健著、刘维治译

ISBN: 9787101051841

中华书局 2007.10

〔中央図書館 文系合同図書室(文)〕

NEWS

六本松分館の移転に向けて

すでにご存じのとおり、2009年4月、六本松キャンパスが伊都キャンパスに移転します。六本松分館の資料とサービスは、伊都キャンパスの理系図書館を増築して、そちらに引き継ぐことになります。

移転に伴い、長年親しまれてきた六本松分館もあと1年ほどで閉館します。これからの「きゅうとNEWSLETTER」では、六本松分館のいろんなことを紹介していきますので、ぜひご覧ください。

レオナルド・ダ・ヴィンチ展のお知らせ

芸術工学分館では、この度、芸術工学を知ってもらおう一つの企画展として、「万能の天才、レオナルド・ダ・ヴィンチの世界へようこそ」を開催します。展示会、図書館関連展示及びポスターセッションなどにより、だれでも参加でき、わかりやすく、インパクトのある体験型の展示会を目指しています。入場は無料で、どなたでもご参加いただけますので、どうぞお気軽にお越しください。皆様のご来場をお待ちしています。

【日時】平成20年3月12日(水)~3月16日(日) 午前10時から午後7時まで

【場所】九州大学USI大橋サテライト「LUNETTE」1F

(福岡市南区大橋1-3-27 TEL:092-554-3875<期間中のみ>)

★ポスターセッション

【日時】平成20年3月14日(金) 14:00-17:00

【場所】九州大学USI大橋サテライト「LUNETTE」1F

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/lib/leonardo/>



貴重文物講習会案内 今年度はこれで最終回となります。

九州大学附属図書館では、九州大学所蔵の貴重文物について認識を深めるために貴重文物講習会を開催しています。

今回のテーマは、出島のオランダ商館医として長崎に派遣されたドイツの医学・博物学者シーボルト(在日期間1823~1829)が、日本での調査をもとに、日本とその周辺地域に関することをまとめた『シーボルト「NIPPON」』です。医学分館に所蔵しており、地理・歴史・国家制度・経済・文化などが詳しく記された貴重な学術書です。関心のある教職員、大学院生の方、ぜひご参加ください。

日時：平成20年3月17日(月) 15:00~16:30 会場：中央図書館4階 視聴覚ホール

題目：シーボルト「NIPPON」について 講師：宮崎克則(総合研究博物館准教授)

★参加申し込み：開催日の4日前までに、附属図書館コンテンツ整備課電子化係(db@lib.kyushu-u.ac.jp)までお知らせください。

レファレンス One Point アドバイス

Q:〇〇分野でよく使うツールはどこにありますか？

A:図書館のウェブサイトでは、自分の携わる研究分野から、検索ツールを探すことができます。

「分野別一覧」のプルダウンから研究分野を選べると、雑誌記事、事典・辞書類、ニュース記事の3つのカテゴリ毎に、最適なツールが一覧表示されます

九大研究者が執筆した最新論文も表示されます

附属図書館の講習会

授業の1コマで活用してみませんか？

利用説明会

特定の検索ツールの利用・活用法を、提供元からの講師が中心となって、紹介します。

たとえば…

Scopus
JDream II
SciFinder Scholar
RefWorks
Web of Science

今年もさまざまな講習会を予定しています。
ご期待ください！



オンデマンド講習会(中央図書館 第2情報サロン)

オンデマンド講習会

授業やゼミの1コマで、みなさんの要望に応じた講習会を、図書館員が講師となって行います。

たとえば…

図書館の資料はどうやって探す？
〇〇分野の情報はどうやって探す？
電子ジャーナルにはどうやってアクセスする？
見つけた文献の効率的な管理方法は？

コアセミナー

コアセミナーの1コマで、新入生に便利な図書館活用法を紹介します。

申込・詳細はこちら

附属図書館ウェブサイト>学習研究サポート>利用説明会・講習会

利用支援課調査サービス係 TEL/092-642-2336
ref1@lib.kyushu-u.ac.jp

図書館員の



今回は移転をひかえた六本松分館の紹介をします。六本松キャンパスは全学部の学生さんが最初に学生生活をおくるキャンパスです。

六本松分館は九大生のみなさんにとって、「いちどは利用したことのある図書館」、「はじめて利用した大学図書館」なのではないでしょうか。そんな六本松分館は、基本的、入門的な図書のほかにも玉泉館資料、演文庫、檜垣文庫など学術的にも貴重な資料が所蔵されているという一面も持っています。(HPでも紹介してます)

例えば、普段みなさんが図書を借りているカウンターの上には貴重な古文書がたくさん収納されていたり、館内には土器や石器が展示されていたり、実はこっそりとクマの剥製も持っていたり、…そんな図書館です。(クマは貴重じゃないかもしれませんが)

さて、大正時代からの長い歴史を持つ六本松キャンパスは、あと1年と少しで移転のため消滅してしまいます。移転後にはさまざまな文章や写真たちが、在りし日の六本松キャンパスを語ってくれる貴重な「資料」として残りますが、自らの言葉で六本松キャンパスの経験を語ることができる最後の世代は、いま在学している学生のみなさんです。何十年後かには「六本松キャンパスを知る最後の生存者」なんてあなたが呼ばれる日が来るのかも知れません。どうか図書館をはじめとするキャンパスのいろいろな風景や思い出を頭と心に焼き付けてもらいたいと思います。

(六本松分館 K.M.)

